

講演会

日時：2016年3月19日（土）

場所：広島大学総合科学部 L201 講義室

演題「母校広大への恩返し・・・ネットワーク作り」

講師 泊里 彰義先生

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました、泊里彰義でございます。講演というものが初めてなもので、上手に話せるかどうか全く自信がございませんが、なんとか頑張りますので、最後までご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

つい最近山陽自動車道のトンネルで事故がありましたけど、大丈夫でしたか、みなさん。お互いに気を付けましょう。先ず初めにお断りしておきますが、私は変人というか昔の人間でございまして、できるだけアナログで生活したいと考えており、従いまして、本日は映像などは用意しておりません。説明不足になると思いますがご勘弁ください。

泊里というのは珍しい苗字で、多分、私の身内以外の泊里さんにはお会いになったことは無いのではないのでしょうか。一文字の泊さんはたくさんいらっしゃるんですけども。和歌山の名前でございまして、和歌山市の大阪府に接した加太と言う、紀伊水道に面した町だけにあるようです。沖縄のイメージが強いようで、つい最近も沖縄出身ですかと聞かれました。ずいぶん昔に阪神タイガースの掛布さんが、まだ現役の頃に「うちにもとまりがいるよ。」って言ってたんですけど、それは三文字の渡真利さんという選手が沖縄出身で阪神にいました。私自身はどうも先祖がジャワ原人ではないかと。ジャカルタからルソンを経由して、琉球から黒潮に乗って紀伊水道に流れ着いたのではないかとこのように思っております。

珍しい名前ですが私が一番好きなのは「小鳥遊」と書いて、「たかなし」さんです。小鳥がのんびりと遊んでいると鷹がいないんですね、周りに。だから「たかなしさん」と言います。うまいですね。日本語の面白いところですね。

皆さんもそうだと思いますが、ついさっきわかったことなんですけど、NHKの大河ドラマ「真田丸」で迫田孝也さんが矢川三十郎役という、大事な役で出演しています。単に広大のOBだと思っておりましたが、バレーボール部のOBと知って大変驚いているところでございます。こうやってOBが活躍してくれるのは嬉しいですね。ジャズ演奏家でサクソやピアノの坂田明さんもそうですね。ミジンコの飼育でも知られていますが、水畜産学部、現在の生物生産学部のOBなんです。彼は自動車部のOBなんですよ。NHKの土日の放送で全国の気象担

当の南利明さんも OB ですよ。

そのような有名人でもなく、バレーボール部の OB でもない私が何故、と疑問に思われていると思いますが、お答えも含めて本日は私自身のこと、自動車部のこと、体育会のこと、同窓会のことを中心にして、バレーボール部との関わりをお話させていただきたいと考えておりますが、その根底にあるものは、母校広大への恩返しです。自慢話のようになりそうで少し心配ですが、その辺りは少しご勘弁ください。

私が生まれたのは、戦時中の 1943 年、昭和 18 年、終戦の 2 年前です。両親は先ほど触れましたように、和歌山の出身ですが、父が海軍の軍人で、江田島におりまして、私は江田島で生まれました。終戦のときは父が陸上勤務で、宝塚に行っておりましたので、原爆にはたまたま遭ってません。江田島におりまして、被害にはあってないと思うんですけど。

戦艦大和が初めて呉を出港する姿を見た母から「まるで山が動いているようだった。」と後になって聞かされました。ということで、現在 72 歳の爺さんでございます。そろそろボケも始まっていますし、数字や年代など、非常に曖昧なところがあると思いますが、その辺は皆さんの常識に任せて、お許し願いたいと思います。

戦後、和歌山に引き上げていきましたが、父が再び軍人になりました。当時は警察予備隊と呼ばれていましたがまだ海軍が無く、陸上で海田市勤務になりました。それが私が小学 2 年生の時です。安芸郡の矢野町、現在の安芸区矢野に広大を卒業するまで住んでおりました。高校は海田高校です。広大には昭和 38 年に 1 浪して文学部文学科に入学しました。専攻はドイツ文学です。「どいつ」からもなかなか信じてもらえませんがね。自分からは「文学部体育科自動車専攻」と答えておりました。何故かは後ほど分かっていただけのことと思います。

自動車部のお話をさせてください。バレーボールはすごくメジャーなスポーツですけど、自動車はマイナーですので、皆さんはあまりご存知ないと思います。高校時代は剣道や卓球をかじっておりましたけれども、大学に入学してすぐ自動車部に入りました。ほとんどの人がそうなんですけど、免許を取るためでした。安い費用で取れるというので。太田川の河原の石で作ったコースでよく練習していました。100 名を超えるほどの人気のある部でした。免許を取って辞める者が多くいましたが、なにしろ入部者が多かったので、私が言うのも変ですが、残った中に優秀な人間がたくさんいました。後ほど体育会を引っ張っていくような人間がたくさん出ています。私ももちろん普通免許をすぐに取りましたが、辞めずに何か残り、在学中に自動二輪、大型免許、大型特殊、大型二種といったたくさんの免許を取得しました。大型二種と言うのはご存知の通り、お客さんを乗せたバスを運転できる免許です。自動車部には、バス会社から譲り受けた大型バスがありました。別に二種でなくても大型免許で運転できましたが、それで東京や大阪等にも部員を乗せて走りまわっていました。死亡を伴うバス事故のニュースに

接する度に、何事もなく良かったなと思うばかりです。

現在は年齢制限や経験年数があって、学生のうちに取れる免許は限られています。大型免許が取れるのは、卒業間際がやっとなでしょう。私の免許で取れていないのはけん引、いわゆるトレーラーですが、取りたいとずーっと思い続けながら、とうとう今もって取れていません。長いトレーラーを車庫や荷捌き場へバックでつけているのを見ると、感心してしまいます。まるで芸術だと思います。皆さんも見る機会があったら、じっくり見てください。きっと感心されるに違いありません。

若い時にいろいろ挑戦すべきですね。学生時代にトレーラーの挑戦をしなかったことを非常に悔やんでいます。年を取るにつれ、段々意欲が減退します。皆さんにおかれましても、今できることは何でもやっておいてください。少しかじるだけでも、役立つことがあるものです。体が覚えているのです。高校時代に卓球をやっていたと言いましたが、卒業以来練習はしていませんが、いたずらでラケットを握った時に、人並みに相手ができるものです。

現在、週に2~3回、近くの山に登っています。海田の駅の裏に「日浦山」という、345mあまりの山があり、自宅から歩いて1時間で頂上に登れます。日の出を見る時間帯に登りますので、今頃ですと朝5時半頃に家を出ます。山登りを始めたのは50歳からでした。百名山までは狙ってませんが、北は北海道の利尻岳から、南は屋久島の宮之浦岳まで経験しています。実は明日も近所に小学生と中学生を4人もったご家庭がありまして、そのお父さんがどうしても子供に山を経験させたいと言いますので、連れて行きます。50歳の時に誘いを断っていたら、山の素晴らしさを知ることができなかつたでしょう。この歳になった今、友人達を山に誘っても誰も乗ってきません。若いうちは、誘いには乗るべきですね。尤も50歳が若いかどうかは疑問ですがね。

自動車部ってどんなことをしているのか、と言う質問をよく受けます。当時の自動車部の競技には、ラリー、運転競技、整備の3種があり、もちろん男女共にありました。現在は時代が変わり、スピード化されており、ラリーも整備大会も無くなりダートトライアルと、ジムカーナと、運転試技の3種があり、もちろん男女共にあります。競技の詳しい説明は、時間がございましたら、最後にさせていただきます。

古い話で恐縮です。昭和38年、今から60年以上前になりますが、入部当時の自動車部は創部以来、まだ10年も経っていない頃でしたが、よく聞いておいてくださいよ、なんと、既に全日本優勝を掲げておりました。もちろん現在も続いており、全日本総合杯の男女優勝が目標です。つい先日送られてきました校友会だよりに、ドリームチャレンジ賞の記事があり、その中でも、自動車部は総合杯優勝を掲げております。関東や関西に裕福な学校が多くあり、自動車はお金も多くかかり、スピード化されており、エンジンやボディにお金をかけなければ勝つことはできません。彼らに勝たねば全国制覇できません。『頭で勝負』と頑張った

ものです。決して彼らより頭が良いということではなく、多くの受験科目を学んだことが彼らより絶対多くの知識を活用できる、という信念での挑戦でした。

信念だけでは勝てず、部としてのアルバイトもし、資金を稼ぎました。学習塾の送迎車の運転やレンタカーの回送等、車の運転が多かったのですが、他にガソリンスタンドでのタイヤチェックや、交通量調査等もやりました。私はマネージャーもやっており、アルバイト探しも役目でした。ところが、せっかく仕事をいただいても、誰も行けないことも結構あり、仕方なく授業を放り出して自分で行ってもしました。それが文学部体育科自動車専攻の言い訳の一つです。アルバイトは当然部の為で、稼いだお金は全て自動車部へ納金させられていたでしょう。まるで、今で言うブラック企業ですね。でもみんなでよくやってくれました。全国制覇の目標があったからに違いありません。

私の在学中に各種目で全日優勝が出始め、卒業までには総合優勝や男女揃ってのいわゆるアベック優勝もあり、以後も優勝し続けました。その時のアベック優勝は整備大会でした。整備大会というのは故障箇所を発見して修理するというものでした。筆記試験もありました。名古屋のトヨタの自動車学校で開催され、優勝賞品が教習に使った中古ですが、トヨペットクラウンのオープンカーで、その時、2台ともいただいた訳です。野天でしたが車庫に2台並んでいました。喜びようは想像していただけることでしょう。

先月6日に体育会同窓会創立50周年記念総会がありました。皇賞の授賞式があり、バレーボール部から池内裕二さんが受賞されました。おめでとうございます。自動車部からも2人が受賞しました。1人は現監督の西本君、もう1人は同窓会理事長としての受賞で、新しく副会長に就任した田中君です。注目していただきたいのは、田中副会長は45年入学ですが、全日本優勝を経験しており、52年入学の西本監督は全日本総合杯男女優勝をしていることです。

世羅高校が駅伝の全国大会でアベック優勝をしたことは記憶に新しいことですが、どれだけ広島県民が喜び、全国のランナーに衝撃を与えたことでしょう。それを思うと、広島大学自動車部の総合杯アベック優勝がどれだけ全国の自動車関係にインパクトを与えたか、お分かりいただけることと思います。

皆さん信じられないようなお顔に見えますが、ここにある証拠をご披露いたします。現在の菅官房長官の前の官房長官であった民主党の藤村修さんが自動車部出身であることはご存知の方が多いと思います。彼は大阪の吹田市出身で、44年入学ですので、私が卒業した翌年、田中君入学の前年の入学になります。彼が大阪出身ということを入れておいてください。彼の著書「民主党を見つめ直す」の中で次のように語っています。

『当時、広島大学自動車部は様々な成績が全国一番でした。自動車が好きでしたから、入学前から入部を決めていました。それが広島大学を受験した理由の一つです。』

とあります。大阪の高校生が知っていたほど、有名であったことが十分お分かりいただけることと思います。

バレーボール部の皆さんも、インカレ優勝は決して夢ではありません。インカレ優勝を目標に掲げてください。きっと叶うはずです。『頭のいいバカになれ』素晴らしいテーマがあるではありませんか。

体育会の話を見せてください。私は自動車部で運転競技の大型貨物と、ラリーのドライバーの全日本の選手であったにもかかわらず、体育会の4代事業幹事に推され、引き受けました。体育会を作った、皆さんもご存知の初代幹事長の山根恒弘さんから「全日本の選手が何故本部員に?」と問われ、「自動車部には優秀な部員がたくさんいますから。」と答えたのを覚えています。事実、先刻も申しましたように、その後も好成績を収めています。

部員が多ければ必ず競争が生まれます。その中からきっと強い選手が生まれます。古くから言われていることですが、参考にさせていただければと思います。

山根さんはこの度の総会で、従来、学長経験者が務められていた体育会同窓会の会長に原田会長の後を継いで就任されています。

当時の体育会本部には、バレーボール部関係では、福永積さんがおられ、皆さんから「積さん、積さん」と呼ばれて親しまれていました。それに後輩で旧姓高橋さん、現、貞利直子さんがいました。当時のバレーボール部は野天で練習していたので、みなさんお顔が真っ黒でした。貞利さんは千葉の市原市に元気にお住まいで、同窓会の活動にもご夫婦で積極的に参加してくれています。福永さんはこの度、体育会同窓会の副会長に就任されました。おめでとうございます。バレーボール部はもとより、体育会のことをよろしくご指導くださいますよう、お願いいたします。

当時の体育会でも多くの事業があり、事業幹事として、正直言って授業には出席できませんでした。自慢話でもなく、お勧めできない話ではありますが、先生から、「泊里は学内で見かけるけど、教室では全く姿が無い。」と言われたものです。文学部体育科自動車専攻の2つ目の言い訳です。

今はリレーマラソンと変わり、学校周辺で実施されていますが、その前身のフェニックス駅伝の初期は、東千田町の正門から宮島口間の往復でした。つい最近、天皇杯の全国駅伝が行われたコースです。私はオートバイで先導していた記憶があります。後に音戸方面に変更になり、その後もいろいろと変わっています。準備も大変でした。

他に聖湖でのキャンプ、スポーツ講演会、スキーバス、スキースクール、音楽会などもありました。道具の貸し出しも当然です。ご存知の通り、その後始末も本部員の仕事でした。聖湖でのキャンプには安田や女学院や鈴峯等の女子にも声をかけました。女子のおかげで男子も多く集まり、盛大に行われました。誘いに行った本部員の中には女子大生と仲良くなった者もおおり、羨ましかったですね。後に結婚した者もいます。実は私も・・・と言いたいところですが、残念ながら

です。真面目だったんでしょうか?ご判断は皆様にお任せします。

音楽会と言っても、今の学生さんには想像できないと思いますが、私たち第4代では、当時、「波路遙かに」や「峠の幌馬車」で世界的に有名だったアメリカのビリーヴォーン楽団の広島公演でした。北海道から九州までの主要都市で開催され、全国共通のパンフレットが制作されていて、会場ごとの主催者が見開き項の地図上に記されていました。他は新聞社や放送局でしたが、広島だけは「広島大学体育会」となっていたことを、今でも誇りに思っています。公演は7,000人以上も集まり、大成功で、当時の金額で250万円の利益を生みだし、各運動部に配分することができました。その頃の初任給は3万円程度でした。続く第5代では「ムーンライトセレナーデ」や「茶色の小瓶」などで有名な、同じアメリカのグレンミラー楽団の広島公演を実施しています。大金を出しての契約です。失敗すれば大赤字です。よくやれたと、社会人になってからも感心したものです。

話はちょっとそれますが、18歳から選挙権が与えられることになり、広大でも学内に投票所を設置するというニュースを聞いたことがあります。これに関連して、エピソードを披露いたします。今は期日前投票はすごく簡単にできます。しかし、当時は「不在者投票」と呼んでおりましたが、簡単には投票許可が出ませんでした。昭和41年だったと思います。スキーバスの計画は、学生といえども春から計画し、日程も発表しています。選挙が突然に公布され、日程が投票日と重なったのです。それでは、スキーバスの担当者はもとより、参加者も投票できません。そこで広島市役所の選挙管理委員会に不在者投票の許可申請に行きましたが、「遊びに行くのに許可は出せない。」の一点張りでした。こちらも負けずに、「選挙はスキーバスの計画の後から決まったこと。私たちは選挙の投票をしたいと言っているのに、なぜ許可できないのか。」と食い下がりました。皆さん、この話は明治・大正時代に平塚らいてうさん達が、選挙権を求めて戦った時代の話ではなく、終戦後20年も経った頃の話なんです。お役人の頭の古いこと、固いこと、残念でした。私は何度も掛け合いました。こちらは投票しないと言っているのではなく、投票をすると言っているのですから、強いものです。とうとう市役所が折れて許可されました。

ところが、その年は暖冬で雪が足りず、早々とスキーバスを中止せざるを得ませんでした。振り上げた拳をどこへ、ということになりましたが、それ以来、私は選挙を棄権したことは一度もありません。自慢の一つです。私の行動は先人たちの努力からみれば、爪の垢ほどにも及びませんが、多くの皆さんの努力と犠牲で得た選挙権ですので、ぜひ有効に使っていただきたく、エピソードを紹介させていただきました。

補足をおきます。既に勉強されていてご存知かもしれませんが、不在者投票制度は現在もあります。病気や仕事等で選挙区外に滞在している場合に適用されます。ついでに添えておきますと、今年卒業されて住所を変える場合には気を付けてください。転居して3ヶ月後までは転居地での選挙権ではなく、前の住所

になります。今年の夏に参議院選挙が予定されています。お気を付けてください。

さて、ここからやっと本筋に近づいてきました。昭和 43 年に広大をお情けで卒業できました。何かの間違いで卒業できたに違いありません。今でも卒業できないのではないかという夢を見ます。皆さんはこんな嫌な夢は見ないで済むように、しっかり勉強してください。

ビリーヴォーン楽団の公演の後始末が終わって、周りを見渡したら皆が就職活動をしていて、慌てて始めたのですが、意外と早く決まりました。就職が決まっていたので卒業させてくれたのかもしれませんが。就職先は東京のコーンズ・アンド・カンパニーという、明治の前から日本で営業している英国系の商社で、現在はコーンズと略称で使われています。ロイズの保険や、ジョンソン・エンド・ジョンソンや航空機や印刷機、電子機器も扱っていましたが、私はロールスロイスやアストンマーチンを輸入している自動車部に配属されました。社会人になっても不思議と自動車部でした。高級車の営業は楽しかったですね。広島弁丸出しでしたが、成績は良く、丸山明宏さん、現在の三輪明宏さん主演の映画「黒蜥蜴」でロールスロイスの運転手役で出演もしました。もちろん顔も名前も出ませんが・・・自動車部の OB には、ロールスロイスの運転も時々こっそりさせていました。

卒業当時の広島には、体育会の同窓会が既にありました。体育会が創立されてたった 3 年で同窓会ができています。すごいエネルギーだったと思います。教育学部や工学部等の同窓会はありましたが、大学全体の同窓会は存在せず、何度も設立の動きはあってもその都度消えており、体育会同窓会は全学の同窓会として、大学から歓迎され、期待もされての設立でした。関東にはまだ当然、体育会も大学全体も同窓会はありませんでした。自動車部も私が上京後 2 年経った頃にやっと関東支部をつくりましたが、OB の数が少なく、同期の連中が時々会う程度でした。もちろん、他の運動部との同窓会としての接触も全くなかったように思います。バレーボール部さんともまだ縁はありませんでした。平成 5 年に私が広島で勤務することになりましたが、ちょうど、大学同窓会の設立機運が高まっており、正に『飛んで火に入る夏の虫』、うまい具合に捕らえられ、手伝うことになりました。翌平成 6 年にその前身となる、同窓会連合大会を開催することができました。体育会同窓会ができて 20 数年後のことです。大所帯を一つに纏めることがいかに難しいか、時間のかかることか、お分かりいただけることでしょう。翌年に正式な大学同窓会が設立されました。今から 22 年前のことです。

体育会同窓会の本部に親睦ゴルフコンペがあります。同窓会としてのイベントが必要と、始めたコンペです。年 2 回、春と秋に開催されており、去年の秋が第 35 回です。前は越智新学長にも参加していただいたそうです。バレーボール部 OB の皆さんにも参加していただいていることと思います。

平成 15 年に自動車部の全日本学生ダートトライアル選手権大会が栃木県的那須でありました。ダートトライアルとは文字通り、ダート、舗装していない悪路

を走り、所要時間を競う競技です。車の善し悪しが成績を大きく左右しますので、貧乏大学には全く不利な競技です。その那須での試合に自動車部 OB 数人で応援に行きましたところ、この貧乏大学が目標通り、団体と個人で優勝したのです。裕福な早稲田や慶應等を抑えての優勝です。部員はもちろん、OB も大喜びしたものです。その時の我々の心に、厚かましくも、「我々が応援したから勝てた。」という気持ちが芽生えました。その気持ちを体育会同窓会関東支部の集まりで報告し、運動部が関東に来て、応援する者がいない。それでは選手が頑張れない。関東のチームは強い上に多くの応援者がいる。皆で応援に行こうじゃないか、ということに決まりました。空手道部、軟式テニス部、馬術部、バスケット部、剣道部、自動車部、トライアスロン部、それに皆さん方バレーボール部他の応援に通いました。

武道関係は関東・関西勢はあまりにも強く、簡単に負けてしまい、すぐ帰らなければならぬようなことが多くありました。そんな中でもバレーボールは幸いにも最低 2 試合あり、試合時間も長く、勝っても負けても、応援のし甲斐がありました。しかし、応援も大変でした。今は男女が関東と関西に分かれています、男女とも関東でした。男女の試合を追いかけ、都内、埼玉、千葉、神奈川を駆け回りました。間に合わない場合は、応援者を分けたりもしたものです。

バレーボールの会場では大きな白地の布に手書きの墨で「広島大学体育会同窓会」と書いた応援幕を張り出し、周りには綺麗な幕がある中で、恥ずかしい思いをさせているのでは、と感じながらの応援でした。

応援も始めは手を叩くのが精いっぱい、声を出す勇気もありませんでしたが、回を重ねるうちに大きな声も出せるようになり、一方では競技によっては手を叩いてはいけない場面もあることなども学んでいきました。例えば、テニスで相手がサーブミスをした時などです。剣道などの武道では静かな応援を求められました。最初の頃のバレーボール部は部員が少なく、インカレでもコートを拭く余裕の部員もいませんでした。しかし、年ごとに部員数が増え、強くなり、インカレだけではなく、東西大会や、皇后杯などの応援にも出かけ、中でも、野口彩佳さんの活躍は楽しみでした。シーガルズへ入団した、と聞いた時は自分のことのように嬉しかったものです。シーガルズの応援に千葉の船橋に行ったこともありました。

再び東京に帰ってからの話をさせてください。東京に帰っても体育会も大学同窓会も無かったものですから、何かしたいということで平成 5 年に体育会本部の仲間を集めて 1 泊 2 日のゴルフコンペをしました。たったの 7 人の参加でしたが続けようということになり、「えっと会」という名前を付けました。広島弁の「えっと」ですね。えっと集まってくれということと、下手な者でもえっとたたいてもええよという意味で。これが非常に好評でした。会を重ねる毎に参加者が増え、本部役員経験者という枠が、体育会 OB なら、広卒ならと広がり、更に奥様方からも好評で近年は軽く 30 人を超え、今年で 20 回目を迎え、元気の源になって

います。後にこのえっと会のメンバーが中心になって体育会同窓会関東支部と引き続いての大学同窓会関東支部が設立される訳ですが、現在の大学同窓会の自動車部 OB 長谷川直哉支部長も、体育会同窓会の剣道部 OB 藤松支部長もこの会の第1回からの参加者であることを思うと、えっと会の存在は大きいものと考えざるを得ません。

体育会同窓会の関東支部を作る際、どなたに支部長になっていただくか大きな問題でした。自動車などより、武道とか、サッカーやバレーボールなど伝統のある部の方から選ぶべきと模索し探し回り、東善敬さんというボート部の関東支部長さんをお願いできました。大学同窓会の関東支部の場合は、体育会同窓会の協力で、すんなりと当時の広島工業会の関東支部長であった中本至さん、元建設省下水道局長をお願いできました。残念ながら、去年夏に亡くなりました。お役人の世界では広卒は肩身の狭い思いをしがちですが、胸を張って広島大学卒業と発言しておられました。

話が少し戻りますが、体育会同窓会関東支部と大学同窓会関東支部とを区別して話しておりますが、近年同窓会に参加する卒業生が少なくなっており、諸々検討した結果、2つを解体統合し、「広島大学関東ネットワーク」にしようという話になり、その方向で準備が進められていると聞いています。いずれにしても、これらの窓口は広大東京オフィスですので、そちらをお訪ねください。

「同窓会に入って何のメリットがあるか?」との質問をよく受けます。そんな時は、「メリットよりも、あなたが同窓会に何ができるかではないでしょうか。」と答え、更に「特に国のお金で勉強させていただいた者にとっては」と付け加えています。皆さん、いかがお考えでしょうか。

最後になりましたが、卒業される皆さん、お疲れさまでした。ずいぶんと楽しませていただきました。今後もバレーボール部との縁を持ち続けていただけたらと思いますし、広大のネットワークを大いにご活用いただけたらと思います。『頭の悪い馬鹿な私』の拙い話ではございましたが、これで終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

〈質疑応答〉

遠藤涼平：失礼します。67期生の遠藤涼平です。貴重なお時間をありがとうございました。講演の最初の方に若いときに挑戦してくれと言われていたのですが、やはり昔と比べて男女差別などという格差がなくなってきた、文化がだいぶ進歩してきた現代では挑戦する機会が増えていると思うのですが、現在の私たちに挑戦してほしいというものがあれば、教えていただきたいです。

泊里先生：先ほど申しましたようにできるだけアナログで生活したいという人間ですので、今の質問に答えられる資格がないと思うのですが、体だけは鍛えたほうがいいと思いますね。私は72歳ですけども、わたしの周りにはもうたくさん

病院に入ったり亡くなったり、一緒に歩いてもという方がおられます。私は山登りをしている関係もあって、足腰は十分です。これくらいしか言えませんが、とにかく十分に体に気をつけてください。みなさん、スポーツをされていて怪我をしますと思いますが、十分に治して、それからしていただいたらいいと思います。

遠藤涼平：ありがとうございました。

岩東由馬：失礼します。67期生の岩東由馬です。貴重なお時間をありがとうございました。質問なのですが、学生時代にトレーラーの免許を取り損ねたとおっしゃっていましたが、他にも学生時代にやり残したことはありますか。

泊里先生：それは99%勉強じゃないですかね。自動車部関係でたくさんの仲間ができたということは結果的に良かったのですが、やはり勉強をしなかったという部分はひとつマイナスとして常にずっと心の中にあります。

岩東由馬：ありがとうございました。

河村志保：失礼します。67期生の河村志保です。貴重なお話をありがとうございました。お話を通して、なぜ自動車部である泊里さんが体育会全体の応援をしようと思われたのか、疑問に思ったので教えていただけたらと思います。

泊里先生：質問に答える前に、背中に「頭のいいバカになれ」と書いてあるシャツを着て、一生懸命床を拭いていたのはあなたかな？

河村志保：はいそうです。

泊里先生：ですよ。すごく印象的です。あのときの優勝は、あなたが最高殊勲選手だと私は思っていました。今度はコートの中で頑張ってくださいね。なぜ体育会に行ったのかはあまり覚えていませんが、体育会に入ってからいろいろな行事があったので面白かったですね。事業幹事だったので、全部の事業をコントロールして、とにかく運動器具の貸し出しから戻ってきた道具の後始末まであるわけですよ。バレーボール部の先輩後輩含めてみんな一生懸命頑張っていたので、それに応えなくてはいけないということがあったのではないのでしょうか。はっきりとした自信はありませんがね。あなたのように下積みの仕事を一生懸命やっている人がたくさんいました。先ほどと関連で、ますます頑張ってください。

<以下は泊里先生のご希望により追記>

◎時間配分が悪く、肝心のネットワークの説明が十分でなかったため、中途半端な説明に終わっています。既述分も含めて簡単な纏めを追記させていただきます。ご活用ください。詳細は廣大東京オフィスでご確認ください。

1. 「体育会同窓会親睦ゴルフコンペ」・・・本部行事 年 2 回（春秋）
2. 「えっと会」・・・体育会同窓会関東支部行事 年 1 回（夏）
3. 「ハイキング部会」・・・大学同窓会関東支部行事 年数回
街歩きや山登り。今年の 9 月には富士山を予定。

4. 「世界美食の会」・・・ 廣大東京オフィスにて。 年 3~4 回
出張の際に入手したお酒等を持ち寄り懇談。
5. 「みせん会」・・・西洋史の勉強会。 廣大東京オフィスにて。毎月第 3 水曜日。
本来は尚志会東京支部の勉強会であったが、現在は開放されています。

以下 2 つは、最近できた集まりで、もちろん私は関与していませんが、若手を中心に活動している模様です。

1. 「東京広大会」・・・20 代中心の集まりで、3 ヶ月に 1 度開催。
2. 「オトナ東京広大会」・・・30 代以上の集まりで年 1 回程度開催。

平成 28 年 5 月 10 日

泊里 彰義